



山の神日記

4月18日

Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

4月18日のおはなし「山の神日記」

かれこれ一週間ばかりお日様を拝んでいない。どんよりした雲は冬めいて、重く厚くたれこめて昼間でも部屋の明かりをつけないとやってられない。居間のソファに寝そべてテレビをつけばなしに眺めながら、時おり窓を見上げては「冴えない空だ」「降ってきたぞ」「雪になった」などと言っていたら、とうとうかみさんに怒られた。

「いい加減にしてちょうだい。働きにも行かないで毎日ぐずぐずうちにて、何してるのよ。隠居でもするつもり？」

「まあそう言うなよ。たまには」

「たまにはって、あなたもう一か月もそうしてるのよ！ 料理してくれるわけじゃない。掃除もしない。ゴミも出さない。あなたがいるせいでわたしは毎日お昼ご飯も用意しなきゃいけない。一日中、次のご飯は何を作るかしか考えられないのよ。何なの？ わたしは家政婦なの？」

「じゃあ昼飯は外で食べて来るから」

「そういうことを言ってるんじゃないの！」

声を張り上げてそう言うと、かみさんはぷいと背を向けて猛然と掃除機をかけはじめた。何か言い返したかったが、かみさんの目元が真っ赤になっているのを見てやめた。こんな時にうっかりしたことを言おうものなら、長い戦争状態を招くのは経験上わかっている。窓の外は、さっき降り始めた季節外れの雪が勢いを増してもくもくと降りしきっている。

じゃあどうすりゃいいんだよ、うちにて断食しろってのかよと内心で毒づきつつ、気まずいので退散しようかと考え始めたところでドアフォンが鳴った。掃除機の音で聞き取れなさそうなかみさんに、おれが出るよと殊勝な顔をして合図して、受話器を取り宅配便のユニフォームを確認し階段を降りて玄関に向かった。

届いたのは小包で、昔の仕事仲間からだった。どうやら地方のみやげが入っているらしいので、かみさんの機嫌を取るために二階に上がり、ほら、五年前にお世話になった金田さん、いまは福岡の方で仕事してるってうまそうなもの送ってくれた、と声をかけた。かみさんはこわい顔をしてただひと言「そう」とだけ言って、掃除機を持って下の階に行ってしまった。

仕方がないのでそのままだらだらとテレビを見ていると、ニュースに知り合いの話が出てきた。掃除を終えて階段を上がってきたかみさんに改めて小包を渡すと、「ありがとう」と言う。少し機嫌を直した声だ。金田さんはいいんだけどさ、小島さんがいけないみたいだ。「いけないって？」仕事でしくじったって。さっきニュースでやってた。「あら小島さん、いい方なのに」どうも年齢で身体が思うように動かないらしい。「お気の毒にね」

小包を開けると、中身は福さ屋の辛子明太子に、ずいぶん値の張りそうな純米大吟醸酒だった。「ふうん。金田さんはご活躍なのね」とかみさん。また嫌味を言われそうな流れになってきたので、あわてて金田からの手紙を開くと、そこには福岡での仕事を一緒にやらないかと書いてある。

「金田さん、何だって？」

「仕事を一緒にやらないかってさ」

「蓆田飛行場の金塊でしょう、違う？」

「ムシロダ……何だって？」

「いまの福岡空港、もともとは大日本帝国陸軍の蓆田飛行場だったの。敗戦時に軍資金の金塊が隠されてそれっきりって噂よ」

「おま！ おまえ、それ」

「金田さん、いつ声をかけてくれるのかと思って調べといたのよ」

「調べといたって……」

「福岡空港のセキュリティシステムについての情報はこれよ」

そう言うとかみさんは、クイックルワイパーの脇にくるくる巻いて無造作に立てかけてあった模造紙を取り上げ、居間のテーブルの上に広げた。福岡空港のセキュリティシステムが丸裸になっていた。

「いつの間に！」

「あなたが会津の旧家から旧幕府軍の金貨を持ち出してた時よ」

「なんとまあ」

「あなた、小島さんの指が必要になるわ。まず警察署から助け出さないと」

(「活躍」 ordered by こあ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

山の神日記

<http://p.booklog.jp/book/48289>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48289>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48289>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.